

第42回神奈川産婦人科内視鏡研究会

抄録集

【演題 1】

二期的手術を施行した卵管間質部妊娠の一例

【所属】

関東労災病院 産婦人科

【演者】

豊原 佑典

【共同演者】

袖本 武男、藤井 達也、福井 大和、上原 真里、佐藤 麻梨恵、星野 寛美
寺田 光二郎、根井 朝美、香川 秀之

【抄録】

【緒言】 卵管間質部妊娠は、異所性妊娠の 2-4%と稀な疾患である。早期に診断される症例もあるが、診断時に大量の腹腔内出血を来していることも少なくない。今回我々は出血性ショックを伴う卵管間質部妊娠破裂に対して二期的に腹腔鏡下手術を施行した症例を経験したので、報告する。

【症例】 30 歳 1 妊 0 産、下腹部痛を主訴に救急搬送され、来院後血圧 71/mmHg とショックバイタルとなった。血清 hCG 5824mIU/ml と上昇、腹部 CT 検査上右卵管妊娠が疑われた。緊急腹腔鏡施行。腹腔内所見より右卵管間質部妊娠破裂と診断した。腹腔内出血は 2900ml であった。手術侵襲を最小とすることが望ましいと判断し、破裂部位からの出血を凝固止血して手術を終了した。術後経過は良好で hCG 値も 12.5mIU/ml まで低下し、10 日目に退院となった。4 ヶ月後に再度腹腔鏡施行。卵管間質部を切開、瘢痕組織を除去し、同部位を縫合した。

【結語】 出血性ショックを伴う卵管間質部妊娠破裂例の治療においては、二期的手術も選択肢になり得ると考えられた。

M e m o

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

【演題 2】

中隔子宮内腔の病変を診断する上で子宮鏡が有用だった 2 症例の検討

【所属】

日本医科大学武蔵小杉病院 女性診療科・産科

【演者】

小川 淳

【共同演者】

松島 隆、山田 舞夕、角田 陽平、針金 幸代、島田 学、川端 伊久乃
深見 武彦、米山 剛一

【抄録】

子宮内腔の組織診は通常子宮内膜搔爬術により比較的容易に行えるが、画像診断から予想される構造に反して意図する部位へ到達させることに困難な症例に遭遇する。今回観察用子宮鏡を用い子宮内腔の構造を確認することにより子宮内腔の組織診を完遂し得た 2 症例を経験したので報告する。

【症例 1】34 歳女性、1 妊 0 産。前回妊娠時、タイミング療法で妊娠するも心拍確認後に流産に至った。その後、経腔超音波断層像で中隔子宮ならびに内膜ポリープが疑われ、精査目的に当院紹介受診した。超音波断層像では子宮内腔が 2 つあり、それぞれに 10mm 程度の大きさの内膜ポリープと思われる腫瘤があった。そこで軟性子宮鏡を用い、子宮内膜搔爬術を施行した。右内腔のポリープはすぐ摘除できたものの、左内腔の摘除に難を要した。子宮鏡で何度も方向性を確認し、搔爬の向きを変更することでようやく摘除できた。検体は左右別々に保存し、それぞれ病理診断をした。診断はいずれも子宮内膜ポリープであった。

【症例 2】69 歳女性、3 妊 2 産。妊娠分娩歴として 2 回帝王切開、1 回人工妊娠中絶がある。不正出血を主訴に来院し、超音波断層法で子宮内膜肥厚 (20mm) を認め子宮体癌を疑った。子宮内膜細胞診及び子宮内膜組織診を施行するも陰性であった。そのため再度子宮内膜細胞診を施行したが、結果は陰性であった。精査のため軟性子宮鏡検査を施行したところ、内腔は癒着のために 2 つの腔に分かれていた。一方の内腔には異常所見を認めなかったが、もう一方の内腔に異常血管を有するポリープ病変を多数認め、黄色の壊死物質も認められた。ポリープ病変は病理診断として類内膜癌であり、後日拡大単純子宮全摘術、両側付属器切除術を施行した。本症例は Asherman 症候群であり、子宮鏡により内腔の癒着を確認し、かつ腫瘍を摘出できた 1 例と考えられる。

今回、子宮鏡で子宮内腔の構造を明らかにすることにより、子宮内の組織診を正確に行い確定診断することが可能となった。

Mem o

.....
.....
.....

【演題 5】

「セプララップ®」使用における当科での工夫

【所属】

川崎幸病院 婦人科

【演者】

飯田 玲

【共同演者】

長谷川 明俊、岩崎 真一、伊藤 雄二

【抄録】

腹腔鏡手術は、その腹壁創部の小ささゆえに癒着防止剤が貼付しづらい場合がある。

そのため、貼付のしやすさから癒着防止剤の選択がなされる場合があり、必ずしも癒着防止効果や手術部位の状態による最適な選択がなされているとは言えないだろう。

当科ではセプララップ®を使用することにより、径5mmのトロッカーを通してセプラフィルム®（クォーターパック）を手術部位に簡便かつ確実に貼付している。その際に、いくつかの工夫をすることで、貼付にかかる時間の短縮とフィルムの密着性アップを図っており報告したい。

セプラフィルム®は優れた癒着防止効果を持ち、費用面での患者負担の軽減に資する有益な医療用品である。癒着防止剤の選択肢として今後も積極的に考慮すべきだろう。

Mem o

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....